

238

300-138



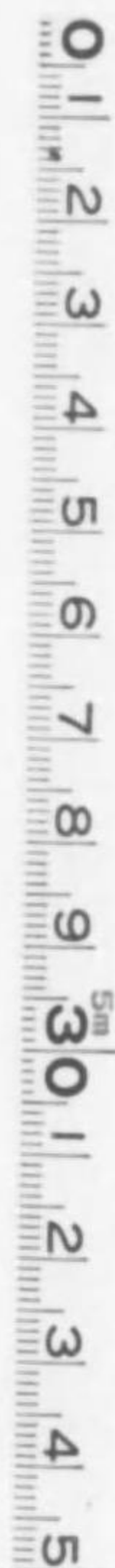
300

138

教大古法帖

二

(集字聖教序下)



始



放大古法帖

第二卷

(第二回配本)

大
唐三藏聖教序
下

中央書道協會



- 一、本書は學者のために、王羲之筆字聖教序を、寫眞を以て放大して習ひよくしたものであります。この帖の權威あるものは「天下第一本」と「人間第一本」との二種ありますが、「天下第一本」の方が鋒芒が明瞭で、初學者に習ひよいか、多くはこれによりました。しかし「人間第一本」の方にも筆路明瞭で、結構が正しく前者に勝るものが澤山ありますから、かゝるものはこれを探つて入れ易へました。
- 二、寫眞を以て放大すれば、極めて正確安全なれど、幾分か氣分と連絡との相違する点がありますから、この短を補ふために、原本大のものを全部掲げましたから、これと比較研究せられて、兩者の長のみを探られんことを切望します。
- 三、巻末には扇、旁、冠、脚、構、總、單體なる文字、及特殊文字を分類したものを附録として掲げました。これは研究者の便をはからん爲めです。
- 四、本書は「聖教序」の後の半分です。前の半分は一卷に納めてあります。

躬省靈彌

益厚頽善

不
足
稱
空

勞
致
謝

皇
帝
在
春

官
迷
三
藏

聖記夫顯

楊正教非

智無以廣

其文崇闡

激之北貨

莫能定其

旨蓋真如

聖教者法

法之玄宗

衆經之軌

踞也綜括

宏遠奧旨

邀深極空

有之精微

骨生賦之

機要調茂

道曠尋之

者不究其

源文顯義

幽履之者

莫測其際

枚知聖慈

所被業無

善而不臻

妙化所敷

緣無惑而

不剪開法

網之經紀

弘 雅 度 之

正 極 教 六

有 之 塗 炭

啓 三 藏 之

秘扇是心

名無翼而

長飛道無

根而心固

道名流度

歷逸古而

鎮常赴感

應身經塵

劫而石朽

晷鍾夕梵

交二音於

鷲峯持日

法流轉雙

輪於鹿苑

排空寶蓋

接翔雲而

共飛在野

春林与天

花而合氣

伏惟

皇帝陛下

上玄濟真福

垂拱而名

心荒德被

黔一物斂視

而朝萬國

恩加朽骨

石室歸貝

葉之文澤

及昆蟲金

匱流林凡說

之傷遂使

阿耨達水

通神旬之

一川者閣

崛山接嵩

華年之翠

山嶺之耦以法

性凝寂靡

歸心而石

通智地玄

奧康魁誠

而遂顯望

謂重昏之

夜燭雙心炬

之光火宅

之朝降法

雨之澤於

是百川異

流同會於

海萬區分

義統成年

寶篋與湯

武校其優

劣堯舜比

其聖德者

恭
玄
壯
大
法

師
者
夙
懷

聰
令
立
志

夷
簡
神
清

齧止亂三年

神族淳

華一之世凝

情定六至一

迹幽空巖插

息三禪巡

遊十地超

六塵之境

獨步迦維

會一乘之

盲隨機化

物以中萃

之
多
質
尋

印
度
之
真

文
遠
涉
恒

河
終
期
滿

字頻登雪

嶺更獲半

珠問道法

還十有七

載備通釋

典利物為

心以貞觀

十九年二

六日奉勅

於弘福寺

翻譯聖教

要文凡六

百五十七

部引大海

之法流洗

塵勞而不

竭傳智燈

之長皎皎

幽闇而恒

明自非久

植
膝
緣
顯

揚
斯
旨
所

謂
法
相
亦
中

住
齊
三
光

之
明
我
皇

福
臻
同
二

儀
之
固
保

見
御
製
衆

經論序
照

古騰今
理

合金石
之

聲文
抱風

靈王之潤石

輒以輕塵

之岳墜露

添流略舉

大經以爲

斯記治素

無寸學性
不聰敏內

典
法
文
殊

未
觀
攬
所

論
序
鄙
拙

尤
繁
忽
見

來書之褒揚

讀述極躬

自作省慙

懷文并勞

師等遠臻

臻以爲愧

貞觀廿二年

八月三日內

股若波羅

蜜多心經

沙門玄奘

奉詔譯

觀

自

在

菩

薩

行

深

般

若波羅蜜

多時照一見

五蘊皆自空

度一切苦

在舍利子

色不異空

空不異色

色即是空

空即是是色

受想行識

六復如是

舍利子是是

諸法空相

不生不滅

不垢不淨

不增不減

是故空中

无色无受

想行識無

眼耳鼻
身

香身之意

色聲香味

觸法之

界乃至無

意識界無

至明二無

一甚明盡乃

至無老少死

二無+老死

盡無苦集

滅道無智

二得無以

無所得故

善提薩埵

依般若波

羅蜜多故

心
心
心
心
心
心
心
心

无
无
无
无
无
无
无
无

无
有
有
有
有
有
有
有

远
远
远
远
远
远
远
远

若多想究竟

涅槃三世

諸佛依般

若波羅蜜

多
故
得
阿

穉
多
羅
三

狼
三
菩
提

故
知
般
若

波

羅

蜜

多

是

大

神

呪

是

大

明

呪

是

無

上

呪

是無等壽

吸能除一

切苦真寶

不虛故說

股
之
右
波
羅

室
多
既
即

况
况
日

搗
諦
諦
搗

般
羅
揭
諦

般
羅
僧
揭

諦
菩
提
沙

波
安
呵

股
以
若
多
心

經

太子
太傅
尚書

左僕射
蘇
國

公于志寧

中書令南陽縣

開國男來來濟

禮部尚書高

陽縣開國男

許敬宗

守黃門侍郎

兼左庶子薛

元超守中書

侍郎兼右丞

子季義尉壽

奉勅潤色

咸亨三年十二月

月八日京城法

呂建之

文林郎請之

神力勤石

武騎尉朱靜

藏鏤字

扁旁冠脚構統及單體文字特殊文字の分類の部

備考

各の代表的のものゝみを挙げ、同體のものは皆省きました。例へば、手局に就いてならば筆勢及結構の相違する代表の五種のみを挙げ、他の澤山の同種のもの皆省き、之続に就いてならば、七種の代表的の異なるものゝみを挙げ他の澤山の同種のもの皆省きました。終りに扁旁冠脚構統の基をなす所の單體文字を挙げ、更に特殊のものを掲げました。これにより研究せらるれば、組織的に徹底して覺る事が出来ると思ひます。

(各文字の説明は要しなと思ひ略しました。)

韻鏡反切韻略及單韻文字辨類文字の代贖の語

（各文字の強弱は要しむる思ひ辨じし式）
一、此の10韻字をさるる外、其強弱は強弱して受る事は出ずると思ひます。
二、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
三、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
四、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
五、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
六、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
七、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
八、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
九、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。
十、此の10韻字は強弱の異なる事は十韻の單韻文字を專し、其強弱の異なる事は強弱して受る事は出ずると思ひます。

像住流得俗僧流
城外岨如如妙和
埤埤域地味况加

弘引疎行行彼御
德後得得物物情
恒惟悟悚曠昨時

搃抑攝扶極法澤
注法流流燄炬煙
施於於於猶獨殊

桂林根相標知知
珠珠現禪福神謁
眼將端端略秘壽

利續砂礫膝騰能
精釋隱陞陽陽降
被袖耶聰紀經續

網翔般般臻則則
野蹤跡躡踞輕軌
輒搏託訓譯記讚

詢況射躬鏡鎮鍾
觸靜軋乾朝疑騎
馳縱勒垂祛骨齧齒

劫則則利劫比能
即印御形彩形影
部邦對師朗朝明

教故敏數股斂欲
波斯所津觀覩縣
翻羅維離唯顛顯

令合玄六爻高公
軍軍寒定宅官窮
春奉山嶺峯于豈履扁

爰辭為二爻昆暑是
羅羅置者者登霞
藏苞苦葉蔭華若

靈泉林凡子善羽翬翠
若花荒空容空窺
筵榮處處中夏雨露雪

典其光芳剪界雙
常帝要李與子垂岳
狀夏多啓寺守守

墨去基集 際業聖皇
昔替智 皆意惡想
愚心忘物 常盡蓋蓋

無然一照 無若一老
衣製羣聲 以負寶歷
累素其家 驚鷺的歷 轅塵

在歷塵庶應考痛
莊老幽進迷迹通
迄通遠遺赴超建

翹周同旬遷迄通
國國固國凡凡風
風聞聞聞聞聞聞

一一二二人人力

八土夕大大子子

方山川小方心心

父父父父日日日

火火月月木水王玄

玄玄玄石生生田

而而而而而而而而而而
自自自自自自自自自自
行行行行行行行行行行

之之之之之之之之之之
老老老老老老老老老老
風風風風風風風風風風

之之之之之之之之
之之之之之之之之
不不不不不不不不

武成感截载西四
与与与与与与与与
以以以以以以以以

乃乃及死死年年年
有有有未未来来東
乘手手馬品品麤麤

原 本 の 部 (實物大)

刻本
〇
陪
(寶壽大)

厚願善不足稱空勞敬謝
皇帝在春宮述三藏聖記
夫顯揚正教此智無以廣其
文崇闡微之此賢莫能定其
旨蓋真如聖教有法法之玄

宗衆經之軌踞也。綜括宏遠，
與旨遐深。極空有之精微，
生滅之機要。詞茂道曠，尋
者不究其源。文顯義幽，履之
者莫測其際。故知聖慈所被

業無善而不臻，妙化所敷，
無惡而不剪。開法網之經紀，
正教極羣。有之塗炭，
啓三藏之秘局。是則名無翼
而長飛，道無根而小固。道名

流慶歷古而鎮常赴應
身經塵劫而不可畏鍾夕梵友
三音於鸞峯慧日法鏡搏雙
輪於鹿苑排空寶蓋接翔雲
而共飛在野春林與天花而合

彩仗推

皇帝陛下上玄濟福垂拱
而名八荒德被黔黎歆視而
朝萬國恩加朽骨石室歸貝
葉之文澤及昆蟲金匱流梵

說之錫遂使阿耨達水通神
甸之山川者開岷山插萬華
之翠嶺竊以法杖凝竅靡歸
心而不通智地玄真成懇誠而
逐顯豈謂重慶之夜燭慧

炬之光火宅之朝降法雨之
澤於是百川異流同會於海
方且分義摠成乎寶豈与湯
武較其後劣堯舜比其聖德
者先云契法師者夙懷聰令

立志夷簡神清韻澗之二年
神
扶浮華之世凝情定室
遊
幽巖拙息三禪巡遊十地
起六
塵之境獨步迦維會一乘
旨
隨機化物以中華之無質
身

印度之真文遠涉恒河終期
滿字頻登雪嶺更撥半珠
問
道法還十有七載備通撰典
利物為心以真觀十九年
二月
六日奉

勅於弘福寺翻譯聖教要
文凡六百五十七部引大海之
法流洗塵勞而不竭傳智燈
之長燄皎幽闇而恒明自此
久植勝緣一願揚斯旨所

謂法相出世任齊三光之明
我皇福臻同二儀之固伏見
御製衆經論序照古騰今理
含金石之聲文抱風雲之潤
台輒以輕塵之岳墜露添流

略舉大經以為斯記

治素以寸學性不聽敏內典
法文殊未觀攬所作論序鄒
拙尤繁忽見來書褒揚讀
述極躬自省慙悚交并芳

師等遠臻誦以為愧

貞觀廿二年八月三日內

股若波羅蜜多心經

沙門玄奘奉

詔譯

觀自在菩薩行深般若波羅

空多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢

不淨不增不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至無意識界無無明盡乃至無老死

二無燒死盡無苦集滅道無
智二無得無所得故菩提薩
埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠
離顛倒苦多想究竟涅槃三世

諸佛依般若波羅蜜多故得
阿耨多羅三藐三菩提故知
般若波羅蜜多是大神呪是
大明呪是無上呪是無等等
呪能除一切苦真實不虛故說

股若波羅蜜多咒即說咒
揭諦揭諦 股羅揭諦
股羅僧揭諦 菩提莎婆訶
股若多心經

太子太傅尚書左僕射兼國公

于志寧

中書令南陽縣開國男來濟
禮部尚書高陽縣開國男
許敬宗

守黃門侍郎兼左太子贊元超

守中書侍郎兼右左少卿

侍奉

勅撰

咸亨三年十一月一日京城法侶建

之 文林郎請之与神力勒石

式騎尉朱靜藏鑄字

聖教序の解説 (承前)

彌益厚願。善不足稱。空勞致謝。
彌々厚願を益す。善稱するに足らず。空しく謝を致すことを勞す。

皇帝在春宮述三藏聖記

夫顯揚正教。非智無以廣其文。崇闡微言。非賢莫能定其旨。蓋真如聖教者。諸法之玄宗。衆經之軌範也。綜括宏遠。奧旨遐深。極空有之精微。體生滅之機要。詞茂道曠。尋之者不究其源。文顯義幽。理之者莫測其際。

夫れ正教を顯揚するは、皆に非ずんば以て其文を廣むるなく、微言を崇闡するは、賢に非ずんば能く其旨を定むる莫し。蓋し真如聖教は諸法の玄宗、衆經の軌範なり。綜括すること宏遠にして奥旨遐深なり。空有の精微を極め、生滅の機要を體し、詞茂く道曠いに之を尋ねる者も、其の源を究めず。文は顯なれども義は幽なれば、之を理むる者も、其際を測るること莫し。

故智聖慈所被。業無善而不臻。妙化所教。緣無惡而不軌。開法網之綱紀。弘六度之正教。拯羣有之塗炭。啓三藏之秘府。

故に知る、聖慈の被る所、業は善として臻らざるなく、妙化の教く所、緣は惡として軌らざるなく、法網の綱紀を開き、六度の正教を弘め、羣有の塗炭を拯ひ、三藏の秘府を啓けることを。

是以名無質而長飛。道無根而水固。道名流慶。歷遠古而鎮常。壯感應身。經塵劫而不朽。晨鐘夕梵。交二音於驚峯。慧日法流。轉雙輪於鹿苑。排空寶蓋。接翔雲而共飛。莊野春林。與天地而合彩。

是を以て名は質なくして長く飛び、道は根なくして水く固く、道名の流慶は、遠古を歴て鎮へに當あり、感に赴き身に應じ、塵劫を経て朽ちず。晨に鐘め夕に梵く二音を驚峯に交へ慧日の法流は、雙輪を鹿苑に轉じ。空を排するの寶蓋は、翔雲に接して共に飛び、野を莊るの春林は、天地と彩を合せり。

伏惟 皇帝陛下。上玄資福。垂拱而治八荒。德被黔黎。歛衽而朝萬國。思加朽骨。石室歸貝葉之文。澤及昆蟲。金匱流梵說之偈。遂使阿耨達水通神向之八川、普開嶺山接嵩華之翠嶺。

伏して惟んみるに、皇帝陛下、上玄福を資けて、垂拱して八荒を治め、德敷に被つて、衽を歛めて、萬國を朝せしめ、思朽骨に加はつて、石室に貝葉の文を歸り、澤昆蟲に及んで、金匱に梵說の偈を流し、遂に阿耨達の水をして神向の八川に通じ、普開嶺の山をして嵩華の翠嶺に接せしめたまふ。

竊以、法性凝寂。塵歸心而不通。智地玄奧。感懇誠而遂顯。豈謂重昏之夜、燭慧炬之光、火宅之朝、降法雨之津。於是百川異流。同會於海。萬區分義。眾成乎實。豈與湯武。按其優劣、堯舜比其聖德者哉。

竊に以んみるに、法性は凝寂なれども、歸心して遂せずといふことなく、智地は玄奧なれども、懇誠に感じて遂に顯はる。豈重昏の夜に慧炬の光にてを燭し、火宅の朝に法雨の津を降すと謂

はんや。是に於て百川は流を異にすれども、同じく海に會し、万區に義を分てども、惣て實に成る。昔湯武と其の優劣を校べ、堯舜と其聖德を比ぶる者か。

玄奘法師者。夙懐三昧令。立志夷簡。神清三昧之年。體拔三摩之世。凝情定室。冥心妙觀。栖息三禪。遊十地。超六塵之境。獨步伽維。會一乘之旨。隨機化物。

玄奘法師は、夙に慧令を懐き、志を立てること夷簡に、神は三昧の年に清く、體は浮華の世に拔き、情を定室に凝らし、跡を幽巖に置し、三禪に栖息し、十地に遊進し、六塵の境を超えて、伽維に獨歩し、一乘の旨を會して、機に隨つて物を化せり。

以中華之無質。尋印度之異文。遠涉恒河。終期滿字。頻登雪嶺。更獲半珠。問道往還十有七載。備通釋典。利物爲心。

中華の質なきを以て、印度の異文を尋ね、遠く恒河を涉つて、終に滿字を期せり。頻りに雪嶺に登りて、更に半珠を得たり。道を問ふて往還すること十有七載。備さに釋典に通じ、物を利するを心となせり。

以貞觀十九年二月六日。奉勅於弘福寺。翻譯聖教要文凡六百五十七部。引大海之法流。洗塵勞而不竭。傳智燈之長燄。皎幽暗而恒明。自非久植勝緣。何以顯揚斯旨。所謂法相常住。壽三光之明。我皇福緣。同二儀之固。

貞觀十九年二月六日を以て、勅を弘福寺に奉じ聖教の要文凡六百五十七部を翻譯せり。大海

の法流を引きて、塵勞を洗へども竭きず、智燈の長燄を傳へ、幽暗を放して恒に明らかなり。久しく勝緣を植ふるに非ざれば、何を以てか斯の旨を顯揚せん。謂はゆる法相常住して、三光の明を輝しうすといふものにて、我皇の福は二儀の固きに同じきに建れり。

伏見御製集經論序。照古騰今。理含金石之聲。文抱風雲之潤。治輒以輕塵足。塵露添流。略舉大綱。以爲斯記。

伏して御製の集經論の序を見るに、古を照し今を騰げ、理は金石の聲を含み、文は風雲の潤を抱く。治(高宗の名)輒ち輕塵を以て塵に足し、塵露(を以て)流に添へ、略大綱を舉げて以て斯記をつくる。

治素無才學。情不聰敏。內典諸文。殊未親讀。所作論序。鄙拙尤繁。忽見來書。褒揚讚述。撫躬自省。慙悚交并。勞師等遠接。深以爲愧。

治(高宗の諱)素より才學なし。情聰敏ならず。内典の諸文は、殊に未だ親讀覽の假せず。作る所の論序は、鄙拙なること尤も繁し。忽ち來書を見るに、褒揚讚述せらる。躬を撫して自ら省りみ、慙悚交并す。師等の遠く接れることを勞とす。深く以て愧となす。

貞觀廿八年八月三日。內出
般若波羅蜜多心經
沙門玄奘奉詔譯
觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不

異空。空不異色。色即是空。受想行識。亦復如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中無色。無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界。乃至無意識界。無無明。亦無無明盡。乃至無老死。亦無老死盡。無苦集滅道。無智。亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無罣礙。故無有恐怖。遠離顛倒夢想。究竟涅槃三世諸佛。依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知。般若波羅蜜多。是大神呪。是大明呪。是無上呪。是無等等呪。能除一切苦。真實不虛。故說般若波羅蜜多呪。即說呪曰。

揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶

觀自在菩薩の般若波羅蜜多を行ひ深むる時、五蘊(地水火風空)の皆空なることを照見し、一切の苦厄を度す。舍利子よ。色は空に異ならず。空は色に異ならず。色は即ち是れ空なり。空は即ち是れ色なり。受・想・行・識も亦復是の如し。舍利子よ。是の諸法空相は、不生不滅、不垢不淨、不増不減なり。是の故に空の中には、色なく、受・想・行・識なく、眼耳鼻舌身意なく、色・聲・色・味・香・觸なく、眼界なく、乃至意識界なく、無明なく亦無明盡なく、乃至老死なく、亦老死盡なく、苦集滅道なく、智なく、亦得なし、得る所なきを以ての故なり。菩提薩埵は、般若波羅蜜多に依するが故に、心に罣礙なし。罣礙なきが故に、恐怖・遠離・顛倒・夢想あることなし。究竟涅槃三世の諸佛は、般若波羅蜜多に依するが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。故に知りぬ、般若波羅蜜多は是れ大神呪是れ大明呪是れ無等等呪にして、能く一切苦を除きて、眞實不虛なることを。故に波羅蜜多呪を説く。即呪を説き曰く。

揭諦揭諦 波羅揭諦 波羅僧揭諦 菩提薩婆訶

般若多心經
大子大傳尙書左僕射燕國公于志寧 中書令南陽縣開國男來濟
禮部尙書高陽縣開國男許敬宗 守黃門侍郎兼左庶子薛元超
守中書侍郎兼右庶子李義府 等奉勅潤色
(西紀六七二) 咸亨三年十二月八日。京城法侶建之。

文林郎諸葛神力勅石
武騎尉朱靜藏潤字

300

138

昭和十五年九月一日印刷
昭和十五年九月十五日發行

放大古法帖 (集字聖教序)

不許複製

編輯者 中根貞臣
發行人 中根貞臣
印刷所 中央書道協會專屬印刷所
印刷人 岩堀惠以

發行所

同門市部見町一九

中央書道協會

電話(同埠)一九〇番
振替口座(名古屋)二二二二番
(東京)一九四七番

賣捌所
東京大實文館
東京東文館
東京北星館
東海陸野店
堂館書

(定價金五圓)

終